



広安里 第9号

発行 釜山日本人学校
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11
TEL 051-753-4166
FAX 051-756-4851
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

「子供を育てていて思う事」

釜山日本人学校 PTA 副会長

中山 舞衣

私達が釜山に来たのは、今から2年6ヶ月前の夏の事。長女は小学3年生、次女は幼稚園年長児、末っ子長男は当時まだ3歳になったばかりで、おしゃべりもろくにできない様なおチビさんでした。それなのに、気が付けば長女は小学5年生、次女は小学2年生、末っ子は幼稚園年中児になり現地の幼稚園に通い日本語と韓国語を使い分けるまでに成長しました。

年齢が上がり身体が大きくなった事、勉強の難易度が上がった事での成長はもちろんですが、ここ最近「誰かの為に行動する」事や「人に優しくする」という心の成長を感じています。

たとえば、ある日の夕食後、私は片付けもせずにリビングのソファで寝てしまった事がありました。目を覚ますと子供達は自分達の寝室でちゃんと眠りにつき、夕食後そのままにしていた食器は洗ってあり、リビングのラグが体に掛かっている、腕の中には私が大事にしているぬいぐるみが…。想像するに、長女が食器を洗ってくれたのでしょう。ラグを掛けてくれたのはきっと次女でしょうが、毛布ではなく近場にあったラグなのはさすがに小学2年生。ぬいぐるみは…末っ子も姉達のように私に何かしてあげたいと思ってくれたのでしょう。私を起こさないようにと姉弟3人が協力して作業にあたった事を想像すると、その優しさにとっても心が温かくなりました。

またある日、私が傷つき塞ぎ込んでいたとき、私のそばに長女が来て、世界中のいろいろな景色が紹介されている本を開いて「ママ、世界は広いのよ」と言った事がありました。私の悲しみなんて、この広い世界から見たらどんなに小さい事かを、その当時小学4年生の彼女に教えられました。

また、私が泣いていれば、子供達が代わる代わる来ては抱きしめてくれたり、ティッシュで涙を拭いてくれたり、私の頭を必死に撫でてくれるのです。疲れた顔をしていれば、おもむろにマッサージ券を作ってプレゼントをしてくれたり、自分のおやつを私にくれたり…。

親バカと思われるでしょうが、よく優しい心を持つ子に成長してくれたなあと思います。(これを読んだ人様がどう思うかは別にして)。しかし、こんな風に子供達に優しくしてもらった時、ふと考えるのです…。常日頃、私は子供達に「自分がしてもらったら嬉しいと思う事を他人にするんだよ」と教えているけれども、はたして自分はどうかだろうか。

自分がしてもらった様に、子供が傷ついている時、そばに居てあげているだろうか？優しい言葉をかけてあげているだろうか？抱きしめてあげられているだろうか？…情けない事ですが、たぶん答えは否だと思います。

私が子供達にしてもらって嬉しかった事は、実は日頃子供達がして欲しいと求めている事であって、本来であれば、先に私が子供達にしてあげるべき事なのだと、子供達に優しくしてもらわないと気が付かない私は、親バカと言うよりバカな親なのです。

「子供が親にしてくれる」なんてドラマのセリフで聞いたような気がしますが、正にその通りだと、子供の成長を目の当たりにして痛感しています。子供3人をここまで育てたのは、自分なのだとちょっと得意そうな顔をしていたけれど、実は子供達の方が、出来の悪い私をここまで成長させてくれたのだと私に教えてくれました。

生まれたばかりの頃は両手で軽々と持ち上げられるほど小さくて、私が抱きしめてあげる存在だった子供達が、いつの間にか、逆に私を抱きしめてくれる存在に成長しつつあります。でも、その腕が短く、まだまだ頼りなく細いうちは、「自分がしてもらったら嬉しいと思う事を他人にする」という事を自分から子供達に態度で示し、私も子供達もお互いに成長していけたらと思います。

道徳の学習について

1 ねらい

次代を担う児童生徒が、未来への夢や目標を抱き、自らを律しつつ、自分の利益だけでなく社会や公共のために何をなし得るかを大切に考え、広く世界の中で信頼される日本人として育っていくことを目指す。

2 道徳教育の目標

『学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う』

3 重点目標

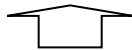
1. 自主的に考え行動する態度を養い、自律性を育成する。
2. 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を尊重し助け合う心を育成する。
3. 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育成する。

平成 25 年度釜山日本人学校の道徳教育（全体計画）

学校教育目標

『自ら学ぶ意欲をもち、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育成する』

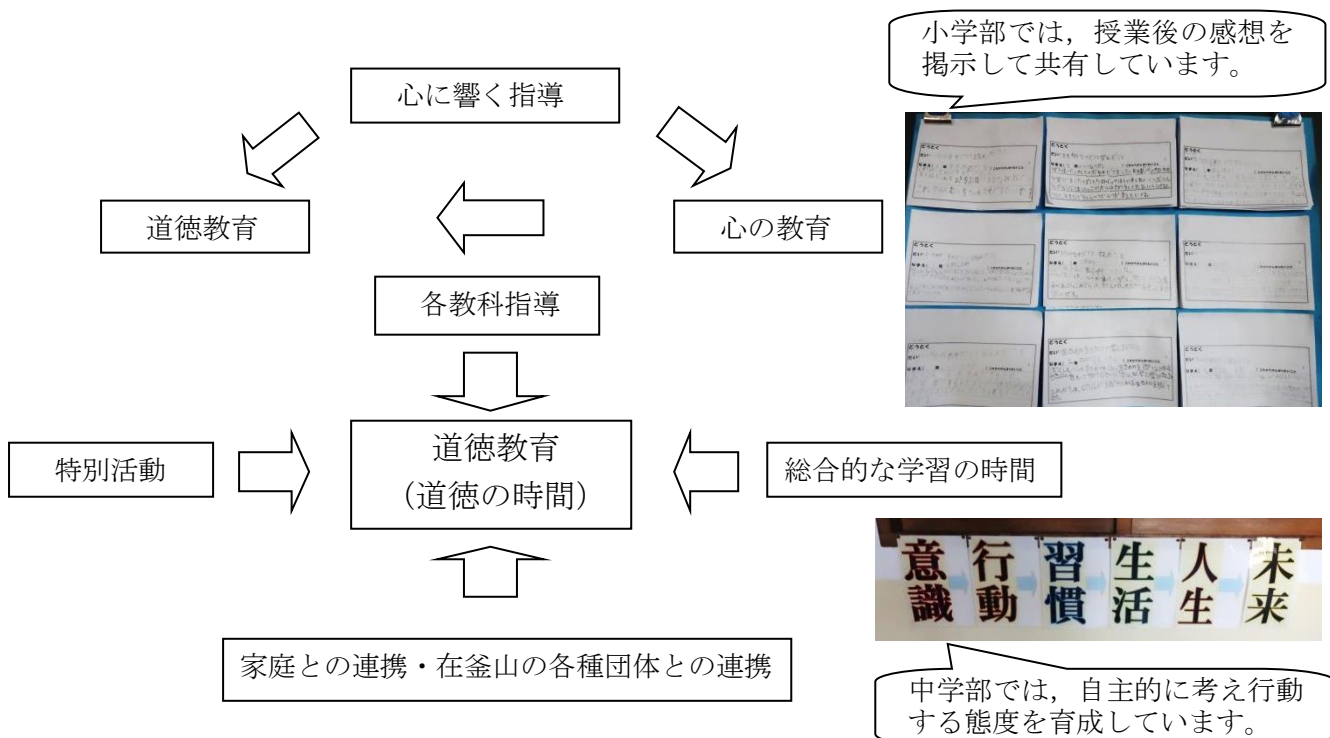
(道徳教育とは)



(豊かな人間性の育成のために)

- 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- 正義感や公正さを重んじる心
- 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- 自立心、自己抑制力、責任感
- 他者との共生や異質なものへの寛容

- 心に響く道徳教育
 - ・体験活動等を生かした多様な取り組み
 - ・魅力的な教材の開発
 - ・係のリーダーシップの発揮
- 共に考える道徳教育
 - ・主体的な課題の解決
 - ・実践的な力の育成



大人になるということ

教諭 住吉谷 大輔

1年の始まりに、決まって手に取る本があります。この原稿のタイトルと同じ、『大人になるということ』という題名の本です。学校の先生という職業に就きながら恥ずかしい話ですが、自分がまだ学生だった頃は、「あなたの恩師は？」と聞かれても返答に窮していました。しかし、自分自身が「先生」という立場に立った今では、何人もの先生方を思い浮かべることができます。先に紹介した本の著者である八ッ塚実先生も、その一人です。

中学時代、私が通っていた学校には『人間学』という風変わりな名前の付いた科目がありました。大きなトランクを抱えた白髪の先生が講師としていらして、根っからの福山弁（広島県の東部にある街で使われている方言）で授業をされるのです。当時の私は、先生が伝えたいことのごく一部しか理解できずにいたと思いますが、その荒々しいながらも温かい授業を楽しみにしていた記憶があります。その白髪の先生こそが、八ッ塚先生でした。先生の授業はいわゆる道徳に似たものでしたが、自分の足で歩き、目で見えたものが題材になっていました。世界中を旅して集めたものをトランクにつめ、それを教材にして「人間としてどう生きるか」を投げかけていました。

1年の始まりである1月に、私が八ッ塚先生の本を手に取るのは、否応なしに「大人になるとは？」を考えさせられる時期だからです。1月になると、正月のために地元へ帰省したかつての教え子たちが、母校を訪ねてきます。中学校時代の思い出話や、進学先や就職先での新生活の話で私たちを楽しませてくれます。そして、2週目にある成人の日には成人式が行なわれ、会場に招いて下さることもあります。成人の日は、祝日法では「おとなになったことを自覚し、みずから生きぬこうとする青年を祝いほげます」ことを趣旨として制定されたそうですが、そんな差し出がましい気持ちはないにせよ、「まだ中学生だった子たちが、無事成人を迎えたのだな。」と純粋にうれしいものです。

そんな成人の日が、ここ数年ニュースをにぎわせています。成人式で騒いだり、飲酒をしてトラブルを起こしたり、一部の新成人のマナーの悪さが連日報道されます。そんなニュースを見て、「今時の若い者は・・・。」と嘆く気はありませんし、まだそのような年でもないと思いたいところですが、自分自身に「年は取ったけど、本当に大人になっているのか？」と問いかけずにはられません。

そもそも「大人」とはどういう人のことを表しているのでしょうか。この答えは子どもたちに聞いてみると、とても勉強になります。子どもたちは、私たち大人が考えるよりずっと純粋な目で「大人」の姿を思い描き、高い理想を持っています。

恩師である八ッ塚先生は、現役の教師時代に残した学級記録の中で、「大人になるということ」をこう記しています。

(一部改変)

《恥ずかしいと思うことの変化》

- 他人がなにか言うのではないか。
- 人に笑われはしないか。
- 人と同じでないとかっこ悪い気がする。

↓

- ◎こんなつまらないことをして、自分が恥ずかしい。
- ◎他人がなんと言おうと、こんな自分は許せない。

《誇りに思うことの変化》

- 人真似をし、他人にくっついているのが得意に思える。
- あれがほしい、これがほしいと、物が手に入るとうれしくてたまらない。
- ラクして、いいカッコしたい。

↓

- ◎努力もしないで獲得したことなんか、少しも誇りと思わない。
- ◎目立たないことだが、自分の値打ちをかけるに値することだから、粘り強くやりつづける。

また今年も成人式のニュースが取り上げられ、思わずこの本に手を伸ばしました。「大人」としての自分を見つめ直させてくれる、試金石のような一冊です。